

パネラーからは、次のような意見がありました。

- ・先輩技術員は若手技術員に目標（課題）を持ってもらうことが大切
- ・物事の判断を任すことによって、技術員の責任感が増し、視野広く物事に接することができるようになる
- ・農家の皆さんとの連携、あるいは技術員同士のチームワークが重要
- ・和牛改良の歴史、現状を確認し、今後の展望をもって業務にあたるべき
- ・技術員が担当地区を越えて、種雄牛候補牛の調査に加わることで、地元から種雄牛を生み育て上げるという使命感が増す
- ・現場後代枝肉成績は、観測された数値のみで能力を評価するのではなく、実際枝肉の断面等をしっかり見て、調査確認するが必要、このことによって真の種雄牛の産肉能力を掴むことが重要
- ・より多くの技術員が枝肉立会することで、農家の皆さんに説明する際にも、更に活きた指導ができるのではないかと
- ・今後の牛づくりについては、計画的に繁殖牛の更新を行うこと、高等登録受検等を通じて種牛能力と産肉能力を兼ね備えた繁殖牛集団を構築していくこと、牛肉のうまみや種牛性を意識して改良を進めていくことが重要
- ・牛肉の販売に関心をもつ技術員であることが必要
- ・牛肉の味を知り、そして消費を伸ばす技術員となるために、地元のAコープ等の精肉担当者と精肉について会話する機会を増やし、更には販売される牛肉を介し、消費者にとって、牛肉生産者である肥育農家や素牛生産者である繁殖農家がより身近に感じられる存在となるように働きかけていくことも大切
- ・第10回全国和牛能力共進会で再び日本一となるため、秒読み段階に入った肉牛の部の交配に全力を注ぎ、全ての出品対策に全力で臨むことが大事

最後に、宮崎牛の更なる飛躍のための新たな挑戦を参加者全員で喚起し、千里を駆け巡る虎のごとく、今年が宮崎牛にとって飛躍の年となるよう全力投球していくことの決意を新たにしました。

めざせ 真の日本一

- ・子牛価格
- ・枝肉価格
- ・飼養頭数
- ・種雄牛造成
- ・肉のうまみ
- ・消費者対策
- ・ブランドづくり
- ・全共対策

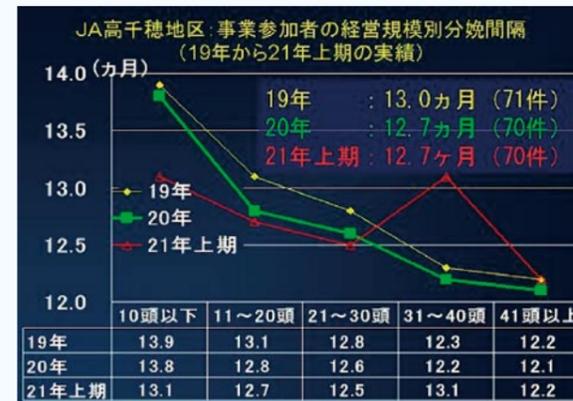


イチロー選手の言葉より 『準備に集中 それがすべて』

肉用牛経営支援事業参加者経営研修会を開催

畜産協会では平成21年10月17日、高千穂地区家畜市場においてJA高千穂地区の肉用牛経営支援事業参加者を対象とした経営研修会を開催しました。

研修会は佐藤部長（JA高千穂地区畜産部）の開会宣言によりスタートし、最初に畜産協会から事業参加者の分娩間隔等の実績報告と、繁殖経営同様に厳しい状況となっている肥育経営の現状について説明しました。



黒木法晴先生(題目「高千穂牛むかしばなし」)

次に黒木法晴（つねはる）先生（元県家畜登録協会事務局長）から「高千穂牛むかしばなし」と題して、高千穂牛の歴史について、先生のこれまでの研究成果と貴重な体験談を交えながらご講演をいただき、参加者は皆熱心に聞き入っていました。

この中で先生は「高千穂牛は天孫降臨の地の神聖な力を受け止めて育ってきた牛。この地で代々引き継がれてきた刈干しも牛の育成に大きな力となっている。どうぞ皆さん、今後も地域性を活かしながら高千穂らしい牛の継承を目指して頑張ってください。」と激励の言葉を発せられました。

当日は同会場でJA高千穂地区青年部による「第8回みさとわくわく市」も開催されましたが、天候にも恵まれ、会場は大変な賑わいとなりました。

この中で県経済連の牛肉消費拡大運動の一環として1パック1,000円の焼肉セットが販売されましたが、売り場にはこれを買いたい多くの人があふれ、併設された焼肉会場も非常に好評を得ていました。



「みさとわくわく市」焼肉セット販売所